



PDA 即興型英語ディベート キーノートディベート（第 18 回）

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2023 年 10 月 9 日（月・祝）09:00-10:30

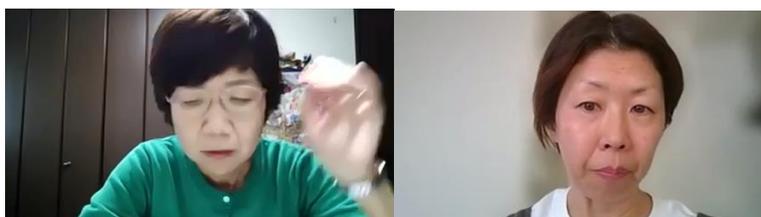
会場：オンライン（Zoom）

参加者：6 名（ディベーター 5 名、見学 1 名）

ディベートの様子

今月のキーノートディベートの論題は、“**We should recommend that talented Japanese high school students enroll in American universities for bachelor's degrees.**”（日本の優秀な高校生にはアメリカの大学への学士入学を薦めるべきである。）でした。

肯定側は、英語力の向上や努力をせざるをえない環境や多文化である環境に身を置くことの重要性について言及し、否定側は、優秀な人材が海外に出てしまうことによる社会への影響や、金銭的問題について言及しました。POI では否定側から肯定側へ「留学でもスキル獲得などは可能ではないか、学士入学を薦める理由にならないのではないか」と質問が行われ、それに対し肯定側は「留学と 4 年間アメリカの大学に通うことには学習の効率に大きな差がある」と返答しました。他にも日本の大学に通うこととアメリカの大学に通うことの違いなどについても議論が深められました。ディベートが終わると、画面越しに握手を交わし、ジャッジからのフィードバックが行われました。



ディベートの様子（POI での質疑応答）



ディベート後のエアー握手

キーノートレクチャーでは、ハーバード大学公衆衛生大学院、ポストドクトラル・リサーチフェローの原口正彦氏にご登壇いただき、ご自身の経験や実感を絡めて論題についてご解説いただきました。

高校生の段階で留学すること、学士入学すること、日本で学部を卒業したのち大学院からアメリカ留学することの違いについても詳しくご解説いただきました。



キーノートスピーカを紹介

質疑応答では、アメリカ留学のための支援拡充についてや卒業後のキャリア、他の国に留学することとの違いについてなど質問の手が多くあがりました。アメリカでは単なる英語ではなく、プレゼンテーションやディベートなど「アメリカ式のコミュニケーション」を学ぶことができるというメリットがあり、その後のキャリアや生き方なども考えることが重要であるとさらに詳しくご解説いただきました。



キーノートレクチャーの様子

参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・生徒たちにも議論してもらいたい題材でした。どうも有難うございました。
- ・ディベートの論題として、だけでなく、自分の日頃の仕事にも生かすことができそうな論題でとても興味深かったです。ありがとうございました。
- ・私自身も海外で経験を積みたいという思いがあるので、行った後に日本にどう還元できるかという点は”日本に戻る”前提で海外に出る場合に共通して考えなければならない点だと思いました。
- ・キーノートレクチャーはアカデミックな内容が多いと思いますが、今回みたいにキャリアアップとかライフスタイルとか身近な話題もあるとよいかもと思いました。
- ・私はディベート初心者ですが、今回のトピックは話しやすく安心しました。また、キーノートディベートの内容も非常に興味があるもので、参加して良かったです。
- ・個人的な成長という意味でも、この key note debate は今後も参加させていただきたいと思います。よろしくお願ひ致します。